

どの子どもも輝き
笑顔いっぱい

よい頭 よい躰 強い体

とね幼だよ



すてきな一年になりますように

園長 笛木 哲

コロナウイルスという目に見えない恐怖に覆われ、誰もが暗い沼の底で、闇の過ぎ去るのを待った令和2年が終わり、新しい年、令和3年が幕を開けました。今年は、どんな年になるのでしょうか。誰もが心晴れやかに、希望をもてる一年になるよう願うばかりです。「願う」と書いてしまいましたが、「したい」と言い換えることにします。それは、コロナの呪縛から逃れられず、マイナス思考になってしまうばかりの大人のすぐそばで、いつも全力で、笑顔で、園庭を走り回る子どもたちから、昨年教えてもらったことです。今この瞬間を精いっぱい生きる、それを幸せと感じる、そんな子どもたちの姿は私たちにたくさんの勇気と笑顔を与えてくれました。

今日1月8日は大安です。日めくりには「人は教えるうちに教えられる」と書かれています。昨年、子どもたちに教えているつもりが、多くのことを教えられました。今年も子どもから多くのことを学び、子どもと共に成長する一年にしたいと思います。3学期は、子どもたちの姿を見ていただく「保育参観」「体操参観」を計画しています。今年の「卒園式」は保護者の皆様にも参列していただき、実施したいと考えています。しかし、コロナ感染が拡大している今の時点では、明確にご案内することはできません。保護者の皆様のお気持ちを大切にしつつ、子どもたちの今を守るために、苦渋の決断を迫られることがあるかもしれません。皆様のご協力のもと、園児のすこやかな成長のために、今年も全集中です。本年もよろしく願いいたします。

「見せてあげる！」

子どもは自分を見て欲しくて仕方ありません。鉄棒ができたときにも、絵が描けたときにも、「見てください」ではなくて「見せてあげようか」と言います。そして、大人が見て、褒めてくれるまで決して引き下がりません。「見せてあげる」という言葉の裏には、「絶対見てよね」という断固たる意思が隠されています。子どもに「見せてあ



げる」と言われたら、大人は「見せていただけるのは光栄です」という気持ちで真剣に見なくてはなりません。どんなに稚拙で、簡単そうに見えても、大いに褒めてあげることが大切です。こうした繰り返しの中で、子どもは自信を膨らませ、次の挑戦への意欲を喚起するものです。あら、泥団子を両手で大切に包み、じっと私の目を見つめて「見せてあげようか」と言い出しそうにしている子が目の前にやってきました。

子どもの姿やことばから教えてもらったこと

- 「クリスマスの時、何をもらうの?」「双六」「うちはお任せ」「ゲーム」…とバスの中でクリスマスプレゼントをテーマにした会話が弾みます。おじいさん世代の私は「双六」という言葉にいたく感動してしまいました。昔の子は誰もがこうしたボードゲームにあこがれ、包みを開くとすぐに家族全員で楽しんだものです。サンタを信頼しきった「お任せ」も何が届くか分からないワクワク感がありますね。
- 年長の男の子から人生を学びました。「人生は何があるか分からないから面白いんだよね。でも僕は先の事が読めちゃうんだ。だから人生つまないんだよね。」
- A「◎ちゃんの髪、くるくるしているね」 B「三つ編みにしていたからだよ」
A「◎ちゃんは器用だから三つ編みが上手」 B「器用なのは◎ちゃんの素敵なところだね」 そばにいた先生が「Aちゃんの素敵なところはなに?」と尋ねると、
A「私のどこがいいところなんだろう?私に素敵なところあるかな?」 B「変顔できるじゃない。変な顔をする人は素敵だよ。だってみんなを笑顔にできるから」
- 靴を一人ではけなかったお友だちが一人ではけるようになるのを見た子が「すごい!」と手を叩いて喜んでいました。お友だちのことを自分のことのように素直に喜べる姿が素敵です。(ちゅうりっぷ組 保育日誌から)
- 鬼を決めるとき、以前は、すぐに「じゃんけん」で決めていたのですが、「一回ずつ順番でやる?」と新しいやり方が考え出されるようになりました。やりたい気持ちをお互いに理解し、順番にやればみんなができるという全員が納得できる形を考えて相談している姿に成長を感じました。(年長組 保育日誌から)



令和2年の漢字は「密」 令和3年はどんな年に

お笑いタレントが令和2年を、「君」という漢字で表していました。「君」という漢字は「コ」「ロ」「ナ」に分解できるからだそうです。うまいことを考えたものです。去年は「コロナ」だけでなく、「自国第一主義」により、世界が大いに混乱しました。自分の利益ばかりを求めているのは、世界は成り立ちません。幼稚園という小さな集団も同じです。自分のことが優先される年少さんから、「君(相手)」の気持ちを考え、「君」と共に行動することができる年長さんになる過程に、成長をみることができます。令和3年は「君」の存在も、我がことと同じように大切にできる年にしたいと思います。

新しいお友だち紹介!

ちゅうりっぷ組に 石鉢あつま君、小畑なるき君、町田かなさんが 加わりました。
ご入園おめでとうございます!



鬼滅の刃 丹治郎のことばから

「悔しいなあ、何か一つできるようになっても、またすぐ目の前に分厚い壁があるんだ」
子どもたちのこれからの人生も同じことが言えるでしょう。
負けるな、子どもたち!

